

南河内社協だより

【発行所】

南河内地区
社会福祉協
議会

【事務局】

南河内出張
所内 岩国
市土生39-3

TEL47-2001



会長挨拶

南河内地区社会福祉協議会々長
山本孝夫



新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。
本年も皆様方にとりまして、よき年であり
ますよう心からお祈り申し上げます。
昨年は雨災害が各地で発生し県内北東部で
も発生し今なお復旧の途上にあります。自
然に対する驚異をいまさらながら教えられ
た年でもありました。

さて、各自治会々長の皆様方には、自治
会活動とともに「地区社協」、「村づくり
塾」の活動にも参加いただき大変お世話に
なっておりますことを感謝申し上げます。

そして、南河内地区住民参加の草刈作業、
清掃活動も年々歳々活発に行われておりま
すことも合わせて御礼申し上げます。

それから、今後皆様方のご協力なしには
解決できない問題として、

「減少する子ども達と学校との連携、連帯
」、「農地活用を如何に継続するか」等々
地区をあげての課題に対して、ご理解とご
支援のほど、宜しくお願い致します。



中学校々長挨拶

岩国西中学校々長
藤重 勇

地域とともにある学校を目指して

新年明けましておめでとうございます。
平素から本校の教育活動の推進に対し、ご理解ご
協力を賜り心からお礼申し上げます。

本校は「未来を生き抜く生徒に育成」を教育目標に
掲げ、四月以降の教育活動に鋭意取り組んでまいり
ました。

具体的には、学習面での「学び合い学習」を柱に
した、多様な学びを促進する授業づくりや、安心・
安全な学校づくり、心豊かなつながりを生み出す、
きめ細やかな生徒指導を進めております。

又八月には、岩国市教育委員会から「コミュニテ
ィ・スクール」の指定を受け、地域と連携し開かれ
た学校づくをするために「学校運営協議会」もスタ
ートいたしました。十四名の運営委員さんと協力し、
子ども達が、学校での活動はもとより、地域での活
動が一層活発で充実したものになるよう、地域の皆
様のご協力の下、力を尽くしていきたいと思います
ので、本年もご支援ご協力を賜りますよう、よろし
くお願い申し上げます。



小学校々長挨拶

河内小学校々長
藤山陽子

この地にこの小学校あり

明けましておめでとうございます。よい年をお迎
えのこととお慶び申し上げます。

皆様には経平素より子どもたちがたいへんお世話
になっております。朝夕の見積もり各種行事への参
加や励まし。学校支援ボランティアへの参加放課後
子ども教室での指導等々限りがありません。子ども
たちが、いかに地域の皆様の温かい目に見守られて
いるかと思うと心強い限りです。しかし、残念なが
ら児童数は減少しつづつあります。そして一昨年度よ
り複式学級も導入することになりました。

しかしながら、子どもたちは元気いっぱい。他地
域から本校に指導に來られた先生方からも「みんな
仲良しで、学習への心構えも素晴らしい。」と、口
々にほめていただいています。

大きいこともいいことですが、小さいことも決し
て悪くありません。規模のよさを生かし、これから
も一人一人を大切にしたい温かい教育を目指します。
今年もご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



地区社会福祉協議会の活動

☆A・E・D(救急救命器)

使用法講習会

十一月十八日(日)南河内公民館二階の会場で二十名参加の中、岩国地区西消防署消防署の専任指導員を迎えて一時間三十分にあたる真剣な講習会が行われました。



☆みんなの体力づくり

健康ハイク(大島嵩山&ミカン狩り)

十一月二十四日(日)参加人数三十八名を得て旧ドライブイン河内山の広場に集合。

レンタルバスと乗用車2台に分乗して八時十五分出発、濃霧の伊陸をぬけて大島橋を通過、登山の出発地となる帯石観音に予定時刻に到着。

九時三十分スタートし、十一時三十分山頂へ到着、凡そ一時間の昼食を終えて、出発地点へ向かう。下りは、登りの半分ほどの時間で下ることができました。

ここから再びバス、乗用車に分乗してミカン狩りへと。この夏の気温の影響とかで、大きめの実が残っていました。こぶし大のミカンは二つも食べると充分なほどでした。別料金で袋にいっぱい詰めて満足そうに帰路にむかいました。



☆球技大会

十月二十一日(日)八時より西中学校グラウンド、体育館及び運動広場でそれぞれの試合が日ごろの練習の成果を発揮し、元気いっぱいになり広がられました。結果は以下の通りです。

【優勝】

- ・ミニテニス(個人)：河野義博・山崎末子ペア
- ・グラウンドゴルフ(個人)：大杉澄子
- ・ソフトボール(チーム)：角・保木連合
- ・ソフトバレーボール(チーム)：ブラックエンジェル



【編集後記】

例年三回の発行を行っていましたが、昨年の十月号は「ねた」不足でやむなく休刊となりました。

情報のご提供よろしく願いたします。

編集委員 森重典夫 水野 惇